

令和元年9月6日

一般社団法人 日本学生サーフィン連盟殿

一般社団法人 日本サーフィン連盟

学連支部長 村田 義篤

第54回 全日本サーフィン選手権 学連支部 参加報告書

1. 報告主文

わが国におけるアマチュア・サーフィン競技会の最高峰である「全日本サーフィン選手権（以下、本大会）」が高知県東洋町生見サーフィンビーチで開催され、学連支部から総勢22名の選抜選手が出場しましたので、結果につきまして報告いたします。開催期間中は全体的にスモール・コディションが続き、大会3日目の22日（木）は波がほぼ無くなりショートはレイ・デイ、結果予備日25日（日）までヒート消化がかかりましたが最終日にグッドコンディションとなりました。また全ヒートで4メンプライオリティルールが適用され、選手によるフェアで白熱した競技が繰り広げられました。その結果、メンクラスで学連支部の石川拳太君（副支部長）が見事に準優勝され、団体で7位という成績を残しました。またOB出場選手も応援や運営にお手伝いいただき今年も無事に終了することが出来ました。今後に向けて、いくつかの課題もありますが、今後の学生を主体とした競技サーフィンの更なる発展を目指して、来年度以降もこれらの活動を続けてまいりますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い申しあげます。

2. 開催内容

大会名称	第54回 全日本サーフィン選手権
主催者名	一般社団法人 日本サーフィン連盟(NSA)
実施日時	令和元年8月19日（月）～8月25日（日）
実施場所	高知県 東洋町 生見海岸サーフィンビーチ
参加者数	1,062名（うち、学連支部22名）

3. 本戦実施写真



<学連テント（最終日）>



<パドル・リレーの応援>

4. 学連支部選手の主な戦績 #詳細は別紙①をご参照ください。

(1) 本戦

メンクラスで石川選手（日本情報通信）が見事に準優勝し、クオータファイナルでは、小川選手（東海大学）や伊藤選手（日本大）が健闘しました。

Gマスタークラスで久保田選手（日大OB）がLBマスタークラスで平野選手（慶應OB）がR3まで進出するなど善戦をしました。

(2) パドルリレー

ジュニア・メンクラス初出場の選手にてチーム編成し、初の専用サーフボードにて挑戦するも、残念ながら入賞は果たせませんでした。



〈メンクラス ファイナリスト〉



〈メンクラス準優勝の石川選手〉

5. 来年度に向けた課題

支部予選後に、合同練習会や決起会（事前連絡会）など交流をはかることで支部の一体感を醸成することや、現地での運営について役割分担を行うなど更なる入念な準備が必要です。また来年の開催候補地は愛知県伊良湖のみが名のりを挙げている状況ですが、遠隔地での開催の場合は、選手以外の運営メンバが常時最低3名「(支部長・代理1名) + (支援メンバ2名)」が支援できる体制も必要です。選手ファーストの精神を尊びながら、実務面での支援体制を強化するなど、全日本サーフィン選手権に対する学連の実施方針を明確にした上で、来年度に向けた課題を整理してゆく必要があります。

6. まとめ

来年以降も石川拳太君のように社会人になっても学連へ継加盟続される「魅力ある学連」であること、そしてビギナー中心の新入生や後輩の育成が最も重視するテーマもあります。これらの推進する一環として春季大会や支部予選を開催し、学連代表選手を選抜し本戦まで無事に終了しました。これは、学連の役員や学生委員の皆様の多大なるご協力の御蔭です。戦績は団体入賞が叶わず残念な結果でしたが、選手一同、最後までフェアに闘い抜きました。この報告を持ちまして厚く御礼申し上げます。

以上（文責：村田義篤）